

# 災害対策の実施における行動の検討

阿部研究室 18L1053H 加藤巧真

## 1. はじめに

災害に備えた行動の啓発は日々行われるが、それらの行動の実施率は伸び悩んでいる。

二宮ら (2019) は、豪雨災害の被害者に災害対策を実施しなかった理由を尋ねるアンケートを実施したところ、

「つい後回しにしてしまう」という理由が最も多かった (図 1)。そのことより、災害対策の実施率が上昇しないことには「先延ばし (後回し)」が関係していることを示唆しているといえる。

藤田 & 野田 (2009) は学習における先延ばし傾向と「セルフコントロール」について調査した。結果、先延ばし傾向とセルフコントロールには負の有意な負の相関があることが示された。また、Shouwenberg & Lay (1995) は学習における先延ばし傾向とビッグ 5 の因子との関係を調べ、先延ばし傾向と神経症因子の側面の一つである「衝動性傾向」と正の相関があることを明らかにした。これら二つの研究から先延ばしとの関係があると考えられる防災行動はセルフコントロール、衝動性とも関係があると推測できる。

先述した二宮ら (2019) では個人特性である先延ばし傾向との関係は検討されなかった。また、藤田 & 野田 (2009) と Shouwenberg & Lay (1995) では各個人特性と災害対策の実施との関係では調べていない。よって今回の研究は災害対策の実施と個人特性、先延ばし傾向、衝動性傾向との関係を検討する。

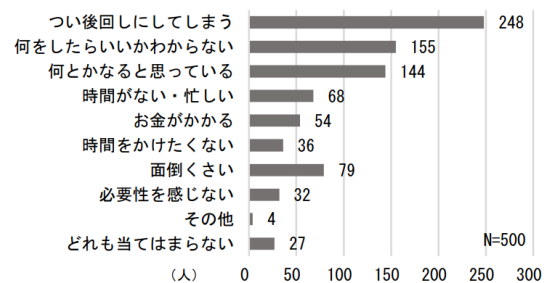


図 1 災害対策を実施しなかった理由 (尾崎ら, 2019)

## 2. 調査 1

### 2.1. 目的

災害対策の実施傾向は先延ばし傾向、衝動性傾向とは正の関係、セルフコントロール傾向とは負の相関があるかを検討した。

### 2.2. 方法

参加者: 57 名 (18~60 歳 (平均 23.8 歳), 男性 32 名, 女性 24 名, 無回答 1 名) が参加した。

使用尺度：各傾向を測定のために使用した尺度と出典、回答数を表1にまとめた。個人特性を示す尺度には妥当性と信頼性を担保がされているものを使用した。災害対策の実施傾向を測定する尺度は政府が実施した災害対策に関するアンケートで使用された項目から、10項目を加藤が抽出し尺度として作成し使用した。

表1 調査1で使用した尺度

測定するもの	使用尺度	項目数	選択肢数	出典
先延ばし傾向	日本語版GPS	13	5	林 (2007)
SC	セルフコントロール尺度の邦訳 (BSCS-j)	13	5	尾崎ら (2016)
衝動性	改訂日本語版BIS11	30	6	小橋 & 井田 (2013)
災害対策の実施状況	出典から抽出し作成した尺度	10	4	平成25年度版 防災白書 (2018)

手続き：調査は google フォーム上で実施した。先延ばし傾向、セルフコントロール傾向、衝動性傾向の質問を答えたのち、災害対策の実施傾向に関する質問を答えた。

分析：各尺度の得点の平均を傾向度として使用した。

### 2.3. 結果

各個人特性間のおおむね先行研究に沿う結果だった。

各災害対策の実施傾向と個人特性傾向との関係があるとはいいいにくい結果が得られた (図2)。また、獲得点を重回帰分析で今回の測定した各個人特性では災害対策実施傾向と各個人特性の関係を検討したが、各水準の  $p$  値、調整済み決定係数の値から、関係があるとする解釈はできなかった。

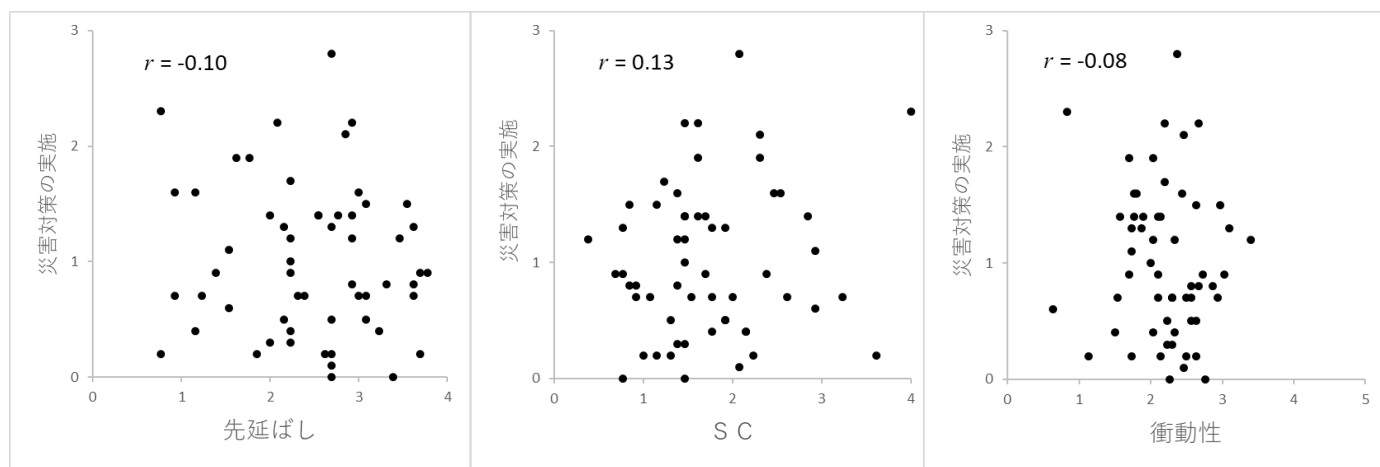


図2 各個人特性と災害対策の実施との関係を示した図  
(左：先延ばし傾向，中央：SC傾向，右：衝動性傾向)

## 2.4. 考察

個人特性は正常に測定できたが、目的の仮説とは異なり災害対策の実施には各個人特性とは関係あるとはいえなかった。

今回の調査では各災害対策の実施のみを回答したが、各災害対策の必要性を加味しておらず先延ばしをうまく表せていなかった可能性がある。この可能性を排除するためにより先延ばしの状況に沿う尺度を作成し、再調査を実施した。

## 3.調査 2

### 3.1. 目的

災害対策の実施だけでなく各災害対策の必要度を踏まえて災害対策の実施傾向の尺度とし、各個人特性との関係を検討した。

### 3.2 方法

参加者：30名（19～60歳（平均 21.8歳）男性 20名，女性 10名）が参加した。

使用尺度：各個人特性と防災行動の実施状況は調査 1 で使用したものと同一のものを使用した。また，各防災行動の必要度を 6 件法で質問した。

分析：防災行動の必要度で「必要である」の回答は正，「必要でない」の回答は負の得点化をした。必要度の評価の得点から防災行動の実施状況の得点を引いた値を新たな災害対策の実施傾向として使用した。その際，必要度の評価がなかった防災行動，新たな災害対策の実施傾向で負の値になったものは先延ばしとはみなせないため分析には含めなかった。

### 3.3 結果

新たな災害対策の実施傾向と各個人特性の関係はみられなかった（図 3）。調査 1 と比較したときに関係に大きな変化はみられなかった。また，重回帰分析からも検討したが，必要度を加味した災害対策の実施傾向と各個人特性との間に関係があるといえる解釈はできなかった。

### 3.4 考察

災害対策の実施には先延ばし，セルフコントロール，衝動性との関係は大きくみられなかった。これは，ヒトの個人特性は災害対策を実施するかどうかにはあまり関係がないこと，もしくは別の要因が大きいために相対的に影響が小さくなっていたことが推測される。

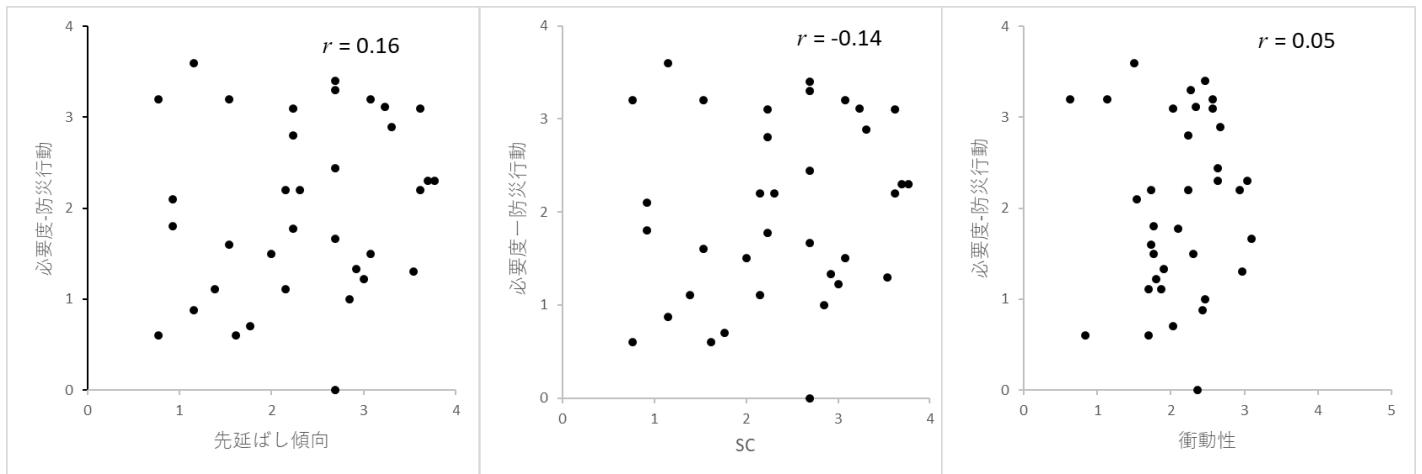


図 3 各個人特性と必要度評価を加味した災害対策の実施との関係  
(左：先延ばし傾向，中央：SC 傾向，右：衝動性傾向)

#### 4.総合考察

今回の研究では災害対策の実施の原因にはヒトの先延ばし傾向，SC 傾向，衝動性傾向はあまり関係していないことが明らかとなった。

先延ばし傾向や SC などのヒトの心理学的特性との関係は薄いことから，人の住居や収入などの社会的要因がより関係していることが推測できる。また，各災害対策の実施しやすさや心理的負担などの災害対策側の要因が相対的に大きく関係している可能性もあると考えられる。

今後は各災害対策が実施にどのような影響があるかを検討する必要があるといえるだろう。